

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

HOT

times

ほっと タイムズ

2026
vol.60

take FREE

ご自由にお持ち帰りください

病院長 就任のご挨拶



MESSAGE

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 病院長 **小田 竜也**

第1回

病院長 就任のご挨拶



主な経歴

- 1988年3月 筑波大学医学専門学群 卒業
- 1988年4月 筑波大学附属病院 外科レジデント
- 1990年4月 国立がんセンター研究所病理部リサーチレジデント
イタリアペロナ大学留学
- 1999年4月 国立がんセンター東病院 肝胆膵外科
- 2012年7月 筑波大学 医学医療系 消化器外科 教授
- 2021年4月 筑波大学 附属病院 副病院長
- 2021年4月 筑波大学 医学医療系 臨床医学域 域長

県立中央病院にふさわしい新病院。 新病院にふさわしい県立中央病院。

私はこのたび第12代茨城県立中央病院長を拝命し、この言葉を胸に刻みました。

私は人には、「犯してはならない二つの罪」があると考えています。一つは、「やってはいけないことを行う罪」です。私は、お酒を飲んで自動車を運転することはもちろん、自転車にも乗りません。交通事故によって人を傷つけることがあってはならないからです。SNSで患者さんや職員の個人情報を発信することもしません。患者さんのデータが入ったパソコンやUSBメモリーには適切なパスワード管理を行い、院外へ持ち出すことはいたしません。職員に対して声を荒げて叱責したり、相手を不快にさせるような性的発言は決していたしません。医療安全、個人情報保護、ハラスメント防止、法令遵守——。これらは病院組織の信頼を支える最も基本的な土台です。私は、病院長として、まず自らがその模範でありたいと考えています。

もう一つの罪は、「やるべきことをやらない罪」です。私が2026年4月というこの時期に病院長を務める意味は、何よりもまず、「新病院建設を前に進めること」にあると考えています。こども病院との統合を含めた新病院構想は、茨城県、そして歴代院長の先生方が長年にわたり積み重ねてこられた努力の上に成り立っています。大きな方向性をここまで形にくださった先達の皆様に、深く敬意と感謝を申し上げます。一方で、大規模プロジェクトというのは、総論がまとまっても、各論の調整で停滞することが少なくありません。これからは、病床機能、診療体制、動線、人材育成、経営、地域連携など、多くの課題を一つひとつ具体化

し、解決していく段階に入ります。私は、1年でも、1か月でも早く、新病院を現実の形として皆様にお示しできるよう、全力を尽くしたいと思っています。

さらに、新病院は単に建物が新しくなるだけではありません。新県立病院は、がん医療、周産期医療、新生児医療、小児高度医療、成人高度急性期医療など、茨城県の中核を担う高度専門医療機関となります。その役割にふさわしい医療を提供するためには、施設整備と並行して、私たち自身も成長していかなければなりません。高度な医療技術、安全文化、チーム医療、そして「県立中央病院」の名にふさわしい使命感——。新病院完成の時に、そこで働く私たち自身もまた、新しい時代にふさわしい組織へ進化している必要があります。

時間(time)というものは、本来、誰に対しても平等に流れていくものです。しかし、そこに意味が与えられた瞬間、その時間は単なる「time」ではなく、「timing(時機)」へと変わります。歌人・俵万智さんは、『この味がいいね』と君が言ったから 七月六日はサラダ記念日』という短歌を詠まれました。何気ない一日が、大切な意味を持つ「記念日」へ変わった瞬間です。

2026年が、ただ過ぎ去る一年で終わるのか、それとも新病院建設へ向けて大きく歩みを進めた「timing」となるのか——。それは、これからの私たち自身にかかっているのだと思います。職員の皆様とともに、「県立中央病院にふさわしい新病院。新病院にふさわしい県立中央病院。」の実現に向け、一步一步、着実に前へ進んでいきたいと思っています。どうか、みなさまのお力添えをいただきます様、よろしくお願い申し上げます。

もっとおしえて! 病院長先生のこと



Q1 座右の銘をおしえてください。

A1 文武両道、暴飲暴食

Q2 趣味をおしえてください。

A2 家具を作ること。40年前に土浦の木工房の前を通りかかって、何故か吸い寄せられる様に「プロが使う機械を使って家具を作らせてもらいたい」とお願いしたのがはじまりです。

娘のイニシャルAを脚にデザインした勉強机は製作した家具のなかでも特にお気に入り。



Q3 家具作りのどのようところが好きですか。

A3 何年も天日干ししてある材から木取りをした際、ピカピカの綺麗な木肌が現れる時と、何百年も、自分が知らない山で育った樹木を、自分の手で新たな家具という役割を与えられる事が楽しい。また、新たな作品を作るたびに少しずつ上達するのが分かる一方で、毎回、ああすればよかった、など改善点に気づきます。ほどほどに精密さは必要だが、少しのずれは木の方が吸収してくれる。全くもって外科手術と一緒に、そういった共通点も面白いです。





見え方の変化 見逃さないで

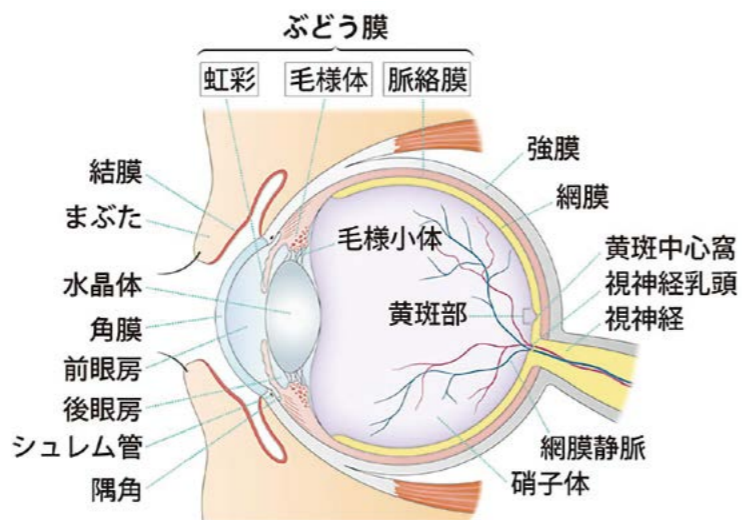
白内障って どんな病気?

白内障は多くの人に加齢とともに経験しますが、初期の段階では放置されがちです。白内障は進行性の病気のため、症状が進行すると生活の質の低下につながります。そのため、早期発見・適切な治療が大切です。そこでくわしいお話を眼科の矢部 文顕先生にお聞きしました。

Q. 白内障ってどんな病気ですか。

A. 眼球の構造を簡単におさらいすると、眼には2枚のレンズがあります。眼の表面のレンズ、角膜と、眼の中のレンズ、水晶体です。この2枚のレンズを通して、光が眼の中に入って、眼底に届きます。眼底には光を電気信号に切り替える神経の膜、網膜があります。白内障は2枚のレンズのうち、眼の中のレンズ、水晶体が、主に加齢の影響で濁る病気です。加齢以外にも、身体の病気や、ステロイドなど薬の影響で、年齢が若い方でも白内障になることがあります。

【目の構造】



出典：日本眼科学会ホームページ

Q. 白内障にはどのような症状がありますか。

A. レンズが濁るため、メガネや窓ガラスが曇るのと原理は同じですが、物が霞むようになります。

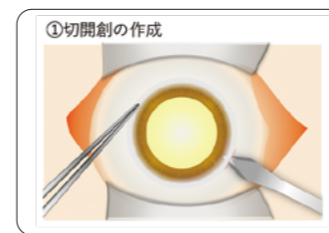


出典：日本白内障学会ホームページ

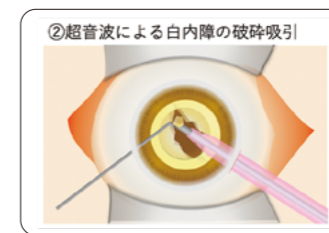
Q. 白内障の治療法をおしえてください。

A. 濁った水晶体を、薬で透明に戻す方法はありませんので、手術で治療します。手術は局所麻酔で行い、手術時間は10分から15分程度となります。濁った水晶体の中身を取り除いて、取り除いた中身の代わりに、人工の眼内レンズを挿入することで、レンズの透明性を回復させます。

【手術の方法】



局所麻酔を行った後に切開創を作成します。その後に水晶体囊前面に5-6mmの丸い孔をあけます。



水晶体囊を残している水晶体（白内障）のみを超音波乳化吸引器で破碎吸引します。



混濁した水晶体（白内障）がなくなるとレンズがなくなりピントが合わなくなってしまうので、代わりに人工水晶体をいれます。

出典：日本白内障学会ホームページ

Q. 受診のタイミングをおしえてください。

A. 眼の霞みを感じたタイミングで受診してみてください。

Q. 手術を受けるタイミングは、いつがいいですか。

A. 手術のタイミングを考えるときに参考にする白内障の進行具合として、2つのことを考えます。まず生活に支障があるかどうかです。自動車の運転、スマホ、テレビ、新聞、雑誌などが、見づらくて不自由を感じるようになったら、手術のタイミングです。特に、運転免許証の更新の時期が近い方は、手術後、視力が安定して免許更新の視力検査を受けるのに適した状態になるまでに2-3か月必要な場合もありますので、早めの手術を検討してください。もう一つは、水晶体の硬化（こうか）です（白内障になると水晶体は濁るだけでなく、年齢とともに水晶体の中身が、徐々に硬くなってきます）。手術で水晶体の中身を取り除く方法は、水晶体を粉々に砕いて、砕いたものを吸い取って除去します。硬くなるほど砕く作業が困難になるため、極端に硬くなる前に、手術を行ってしまった方が、安全性が高くなります。



眼科 部長
やぶ ふみあき
矢部 文顕

矢部先生
から
ひとつ

白内障は加齢とともに、誰もがなる病気です。高齢になって、物が見づらくなる原因の多くは白内障と関連しています。現在、白内障に関しては、安全性の高い手術で、また高い確率で視力を回復することが可能ですが、高齢になると、網膜の病気や、緑内障など白内障以外の病気を併発していることも珍しくありません。高齢になっても生活に必要な視力を維持するために、見づらさを感じたら、まずは早めに眼科を受診して、見づらさの原因を調べることが大切です。

クローズ
CLOSE

アップ
UP

当院の 取り組み



DMAT(災害派遣医療チーム) 災害医療への取り組み

当院は災害医療にも積極的に取り組んでいます。発災時に活動できる専門的なトレーニングを受けた医療チーム「DMAT」は災害医療に欠かせない存在です。今回は当院のDMATの活動をご紹介します。

※ Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって略してDMAT(ディーマット)



詳しくは
こちらから

DMATの役割

自然災害、新興感染症、サイバー攻撃と官民間わす危機管理が注目される時世となりました。特に広域の自然災害では被災地の医療の需要が急速に拡大する一方で、必要な資源の供給が滞ると医療ひっ迫を招き、さらにこの状態が悪化すると、ついには医療崩壊につながります。被災地域の医療体制を支援し、必要な資源(ヒトやモノ、ライフライン)を補う調整をすることで、傷病者の生命を守ることが私たちDMATの役割です。

2005年の発足当初は、発災後72時間と限られた時間の中で傷病者をいかに救命するかに専念していました。その後も多くの大災害を経験し、現在は被災地域の保健・福祉・医療の体制を早期に復旧するための支援に重きを置かれています。「被災地域のためにやれることはなんでもやる」がDMATの合言葉です。

能登半島地震での活動を通して

2024年1月の能登半島地震には、当院からDMAT隊3隊(延べ17名)、ロジスティックチーム(現コーディネーションチーム)1名を派遣しました。多くの支援チームとともに、災害拠点病院や介護老人保健施設、診療所の支援、被災地外への搬送の調整など、多くの業務に携わることができました。この貴重な経験は当院に所属するDMAT隊員全22名、ひいては多職種の職員に共有され、今後の災害対策に活かされます。

災害医療の充実化で安心を支える

さて、当院は茨城県立こども病院との統合に向けて準備を進めています。基本構想骨子(案)の中で新県立病院の担うべき機能・役割として、へき地医療支援や新興感染症医療への取組の強化、そして災害医療の充実化が挙げられています。地域災害拠点病院および原子力災害拠点病院の役割を継続し、今後も県民のみならず安心をお届けするため、災害医療の充実を図っていく所存です。

災害はいつか必ず発生します。科学技術がいかに進もうとも、発災を防ぐことはできません。みなさまご自身やご家族さまのかけがえのない命や大切な財産を失う悲劇を最小限に留める(「減災」といいます)ために、私たちは平時より災害対策の整備に努め、各行政機関との連携訓練を続けてまいります。引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



DMAT 3次隊



DMAT 6次隊



JMAT

※ DMATは発災直後から被災地の保健・福祉・医療を支援し、徐々にJMAT(日本医師会災害医療チーム)やDHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)、日本赤十字などに業務を引き継ぎます。

医療安全管理対策室 安心・安全な医療のために

医療安全管理対策室では医療事故の防止、安全な医療の提供を目的に患者さんや家族の皆さんが安心して安全な医療が受けられるように、さまざまな取り組みをしています。



詳しくは
こちらから

医療安全活動の紹介

①インシデントレポート管理

現場で「ヒヤッとした」「ハッとしたり」ことを報告いただきます。医療安全に対する職員の認識を高めています。



②医療安全管理対策室カンファレンス

1週間で起こったインシデントレポート報告の中から、アクシデント事例や、影響度が低くても重要な事例など、多職種で再発防止策の検討、情報共有を行っています。



③医療安全ラウンド

月1回、院内各部署を多職種でラウンドし、環境や業務の安全性を評価しています。改善が望まれる点や優れた点を各部署にフィードバック、対策を講じてもらい改善状況を確認しています。



④医療安全管理対策準備ワーキング

月1回、医療安全管理対策準備ワーキングを開催し、重要事例等について検討しています。



⑤医療安全管理対策委員会

月1回、医療安全管理対策委員会を開催しています。医療事故防止と患者・家族の安全確保を目的に、組織的な安全管理体制を構築・運営しています。インシデント報告の分析、改善策の策定と実施評価、情報共有、マニュアルの整備等を行っています。



⑥医療安全に関する相談対応

患者相談窓口と連携し、医療安全に関する質問や相談などの対応を行っています。



⑦職員教育

医療従事者が安全な医療提供を行うための知識・技術・意識を習得するために、全職員対象の医療安全研修を年2回実施しています。

⑧医療安全地域連携相互ラウンド

医療事故防止や医療の質向上を図るため、地域の医療機関間での情報共有と相互評価を行っています。外部からの視点を取り入れることで、内部評価では気付かない問題点を明らかにし、改善策を講じる機会となっています。



おかげさまで60号

ほっとタイムズができるまで

茨城県立中央病院の広報誌「ほっとタイムズ」は2007年秋に創刊しました。2023年の秋号では50号を迎え、新たなスタートとして、デザインを大幅にリニューアル。そして今回、おかげさまで60号を迎えることができました。病院は医療者にとっても患者さんにとっても緊張する場所。そんな病院にも「ほっと」する時間があったらよいのでは？との思いで「ほっとタイムズ」ができました。これからもその思いを受け継ぎ、当院の最新治療をはじめ、医療や健康、役に立つ楽しい情報など、地域の皆さんによるこんでいただけるような広報誌をお届けしてまいります。引き続きご愛読をお願いします。

ほっとタイムズの産みの親
名誉院長 永井先生からのメッセージ



ながい ひでお
名誉院長 永井秀雄

私が2007年4月に赴任してきたとき、職員向けの院内広報誌がありました。院長や部長の挨拶、職場紹介など職員にとって有用な情報が載っており、これと同じような一般の人向けの広報誌を作ろうと呼びかけたところ、多くの賛同をいただきました。私たち職員は、皆様の一刻も早い回復を願って日夜働いており、緊張の毎日です。そんな病院にも、また、そんな病院だからこそ、「ほっと」する時間、空間があってもよいのでは？という思いが冊子「ほっとタイムズ」を生みました。編集方針は、気軽に読んでいただけるよう「肩の凝らない内容」とし、院内のさまざまな情報を定期的にお届けするようになりました。



創刊号。タイトルの「ほっと」のあとに小さな泡が3つ続くデザイン。「と」が口を開いているように見え、息がホッと出ているようで感じた覚えがあります。

創刊号はこちらから読めます▶



私の在任中で最も強く印象に残る「東日本大震災」。当院も建物の損壊が著しく、病院の壁のあちこちにひび割れが。職員からの「ひび割れを見るとあのときの記憶がよみがえって辛い」との声でひび割れをぜんぶ塗ろうと決意。1階廊下の壁に「東日本大震災にて被災」と書いてから塗装を始めた時の一枚。

2011年秋号 (vol.7)
「震災を振り返って」の寄稿より



vol.7はこちらから読めます▶



広報誌ほっとタイムズの歴史

2007. 秋号 ほっとタイムズ創刊号



タイトルは当時の副看護師長の提案により「ほっとタイムズ」と名付けられました。発行当初の広報誌はA4版見開き4ページで発行。県民の方に向け、病院の最新情報や病気の豆知識等を掲載した広報誌がスタート。ここから「ほっとタイムズ」の歴史が始まりました。

2014. 夏号 ほっとタイムズ Vol.15



お持ち帰りやすく、女性のバッグに入りやすい大きさに(A4版→B5版)サイズを変更。三つ折りの全6ページとなり、院長メッセージ、病気を知ろうQ&Aに加え、各科各部紹介やドクター紹介などの掲載も始まりました。

2017. 冬号 ほっとタイムズ Vol.28



ページ数を12ページに増やし、冊子タイプに変更しました。当院の各診療科やセンター等の取り組みや治療等のご紹介もページ数を増やし、より読み応えのある内容にしました。また連携医療機関のご紹介もスタート。紙面の充実化に向け大きく動き出しました。

2023. 秋号 ほっとタイムズ Vol.50



記念すべき50号を迎え、デザインを一新しました。リニューアルするにあたって、冊子のサイズを再び大きくし、手に取りたくなるような洗練された表紙、そして記事が読みやすいレイアウトなど、工夫したデザインを取り入れ、新たなスタートを切ることにしました！

2026. 春号 ほっとタイムズ Vol.60



創刊からあつという間に60号を発行する運びとなりました。先生方をはじめ各部署の方々、連携機関の方々、そして想いがつまった原稿を形にしてくれる印刷会社の方々、たくさんのご協力を得てほっとタイムズは作られています。これからも当院と地域のみなさんをつなぐ、末永く愛される広報誌を目指します。



バックナンバーはこちらから読めます



HOT times (ほっとタイムズ) ができるまで

01 企画・構成案づくり (編集会議)

ほっとタイムズは季刊誌として年4回発行しています。編集会議では各部署から選出された編集委員がそれぞれ収集した情報を持ち寄り、色々な視点から特集のテーマや定期コーナー等企画を練っていきます。



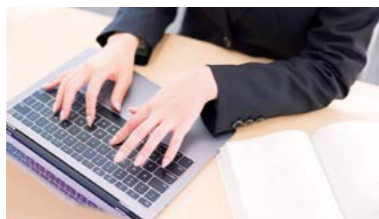
02 取材・情報収集

特集のテーマや定期コーナーの内容に添って、医師をはじめ、各部署のスタッフに原稿執筆の依頼をします。また、必要に応じてインタビューや写真撮影等、実際の素材を収集します。



03 入稿原稿の作成

集めた情報や原稿を記事にしていきます。医療情報などではできるだけわかりやすい表現に。また、内容がイメージしやすいように写真やイラスト、グラフ等を取り入れたりします。積極的に読んでいただけるよう読者目線を大切に作成しています。



04 デザイン・レイアウト制作

誌面として見やすく整えます。フォント・色・写真やイラストの配置、場合によっては内容を理解しやすくなるような図解の作成など制作会社の方とオンラインで相談しながら、進めていきます。



05 校正・チェック

誤字脱字のチェックをはじめ、元原稿を作成してくれた執筆者のスタッフにも確認をとりつつ、編集委員も合わせて校正を行います。校正と修正を繰り返しながら誌面を仕上げていきます。



06 印刷・納品・配付

完成したデータを印刷、デジタル化(ホームページ掲載用)します。広報誌は納品後、各病棟や外来待合室のラックに配置。連携医療機関の皆さまへも郵送しています。



ちよこっと Kenchu

編集委員による笠間のここがおすすめ!

茨城県立中央病院がある笠間市は、自然・歴史・アートが心地よく調和した、ゆったりとした時間が流れるまち。そんな魅力あふれるまち、笠間市のおすすめをご紹介します。

笠間芸術の森公園

「あそびの杜」で超ロングすべり台やふわふわドームで遊ぶのもよし、「陶芸美術館」で陶芸をゆっくり鑑賞するのもよし、季節を問わず大人も子供も楽しめます。



笠間つつじまつり

約8,500株ものつつじが山一面をピンクや赤に染め上げる光景は、まさに圧巻。山頂でソフトクリームを食べながら笠間を見渡せるのも、とっても気分がいいです。



笠間焼

「笠間やきもの散歩道」には工房や作家さんのギャラリーが立ち並びます。市内には笠間焼の器でメニューを提供するカフェやお店も多く、そこを訪れるのも楽しみのひとつ。



笠間の陶炎祭

200を超える窯元が大集合! 作品を見て、買って楽しむのはもちろん、グルメも楽しめる笠間焼最大の陶器市。毎年GW期間中(4/29~5/5)に開かれます。



愛宕山

あたごフォレストハウスに併設されたパノラマカフェは眺望抜群。眼下に広がる景色を眺めながらのカフェタイムは最高! 桜の名所。

毎年12月に開催される日本三大奇祭の一つ「悪態まつり」も有名です。



栗スイーツ

全国でも有数の栗産地である笠間市は、絶品モンブランが楽しめるカフェや洋菓子店が多くあります。その他、栗を使ったお菓子のお店もたくさんあって、栗好きにはたまらない!



笠間稲荷神社

10月下旬から11月下旬に開かれる「笠間の菊まつり」はもちろん、美しい藤の花が彩る春の境内もオススメ。



笠間いなり寿司

そば・くるみ・舞茸などの素材を使った変わり種のいなり寿司は、笠間ならではの。

提供:
笠間いなり寿司いな吉会



あなたの街のお医者さん

連携
医療機関の
ご紹介

茨城県立中央病院と連携し、地域の皆さまの健康をサポートしてくれる医療機関をご紹介します。

みんなの内科外科クリニック

内科・外科・消化器内科・脳神経外科・皮膚科・リハビリテーション科
循環器内科・呼吸器内科・形成外科・整形外科



私達は、2023年4月にひたちなか市足崎に開院しました。「医療法人博仁会みんなの内科外科クリニック」(有床診療所)として「外来診療・訪問診療・入院」の3本柱で診療を行っております。病床は19床で必要に応じて入院も可能です。

当院は、地域の皆様と共にありたいと思っています。穏やかな気候のひたちなか市の広くひらけたこの土地で、地域の皆様が安心して暮らせるように、医療・介護・福祉の分野でお手伝いしていきたいと考えています。治す医療はもちろんのこと、治し・支える医療・介護・福祉を生活の中に届け、地域の皆様に寄り添い皆様が笑顔になれる地域づくりに貢献したいです。

☎ 029-212-8415

院長：菊池 二郎

住所：ひたちなか市足崎1474-8



診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00 - 12:00	○	○	○	○	○	○	—
14:30 - 17:30	○	○	○	○	○	—	—

休診日：土曜午後・日曜・祝日

メディカルケアクリニックかさま

整形外科・内科・放射線科・リハビリテーション科



令和元年10月1日、笠間市内に地域密着型クリニックとして「メディカルケアクリニックかさま」を開院いたしました。地域住民の皆様が、慣れ親しんだ住まいと気心のしれた人達に囲まれ、いつまでも安心して生活を続けることができるよう支援することが、当クリニックの役割だと考えております。そのため外来診療では、MRI検査による適切な診断と治療、訪問看護や訪問リハビリテーション機能の整備、アスリートのためのスポーツ外来も設けております。

皆様のより近くに、さらに身近に感じられる、そんなクリニックでありたいと願っております。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

☎ 0296-71-8585

院長：関 忍

住所：笠間市笠間1723-2



診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00 - 13:00	★	★	●	—	★	●	—
15:00 - 19:00	○	★	○	—	○	★	—

休診日：木曜・日曜・祝日

●：訪問診療 ★：予約制診療 ○：通常診療

※受付時間：午前 8:30-12:30 午後 14:30-18:30

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
Ibaraki Prefectural Central Hospital, Ibaraki Cancer Center

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 TEL:0296-77-1121(代表) <https://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>

